

受注動向調査結果

-2012.8-

- 調査時点 平成24年6月調査（平成24年6月末時点）
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎（3、6、9、12月末時点）
- 回答企業 100社（回答率：66.6%）

<業種内訳>

プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	6社
金属製品	21社
一般機械器具	21社
電気機器	17社
輸送用機器	9社
精密機器	11社
縫製	7社
計	100社

DI (Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

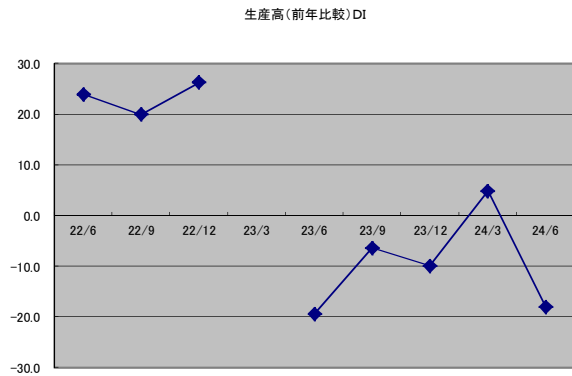
生産高（対前年同月前比）DI

大幅悪化し、再びマイナス水準へ

【概況】

生産高DIは▲18.0となり、前回の4.9から22.9ポイント減と大幅悪化し、再びマイナス値へ転落した。

前回調査時は生産が好調な自動車や、新興国向けの需要が旺盛な建設機械、スマートフォン向けのFA機器関連の受注増が要因で改善を見せた。今回、自動車については堅調に推移しているものの、FA機器等の装置関連を中心に全体的に悪化したことが、大幅悪化の要因となった。



	(年/月) 22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
生産高(対前年同月比)DI	24.0	20.0	26.3	(未調査)	▲19.4	▲6.4	▲9.9	4.9	▲18.0

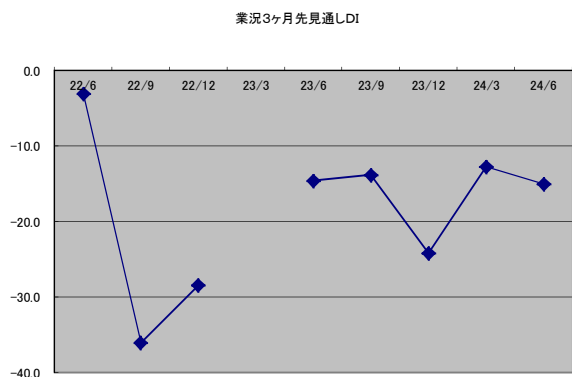
業況3ヶ月先見通しDI

見通しは依然として厳しい状況

【概況】

業況3ヶ月先見通しDIは▲15.0となり、前回の▲12.7から2.3ポイント減の悪化となったものの、22/6月期以降連続でマイナス値から抜け出せない結果となり、先行きは不透明な状況である。

依然続く円高や現地生産化の加速により、海外への生産シフトが急速に進んでおり、国内の受注環境の悪化が懸念される。



	(年/月) 22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
業況3ヶ月先見通しDI	▲3.1	▲36.0	▲28.4	(未調査)	▲14.6	▲13.8	▲24.2	▲12.7	▲15.0

受注単価D I

低水準で横ばいに推移し、改善の兆しも見られず

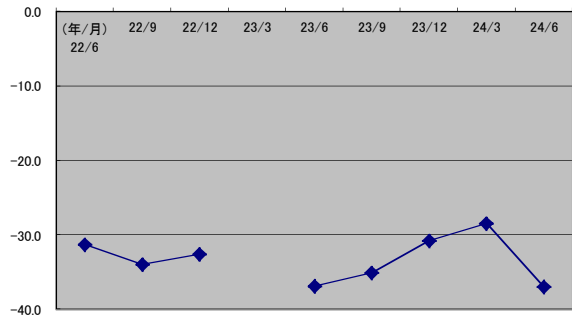
【概況】

受注単価D Iは▲37.0となり、前回の▲28.4から8.6ポイント減と悪化となった。

受注単価はここ2年間の調査において低調に推移しており、改善の兆しもうかがえない状況である。

国内大手企業を中心にグローバル化が進むなか、県内の中小企業は人件費の安い新興国との競争にさらされており、受注単価も厳しい状況が続くと見られる。

受注単価DI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
受注単価DI		▲31.3	▲34.0	▲32.6	(未調査)	▲36.9	▲35.1	▲30.8	▲28.4	▲37.0

稼働状況D I

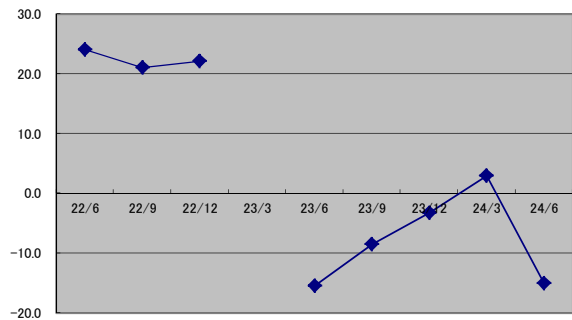
これまでの改善基調から一転して、大幅悪化

【概況】

稼働状況D Iは▲15.0となり、前回の2.9から17.9ポイント減と悪化し、改善基調から一転、大幅悪化した。

生産活動の悪化により、設備の稼働状況も悪化していることがうかがえる。

稼働状況 DI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
稼働状況DI		24.0	21.0	22.1	(未調査)	▲15.5	▲8.5	▲3.3	2.9	▲15.0

資金繰りD I

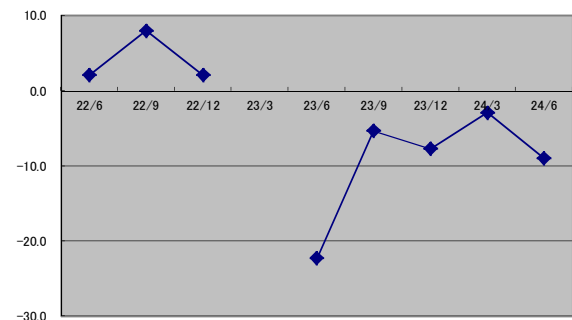
震災以降、5期連続でマイナス水準

【概況】

資金繰りD Iは▲9.0となり、前回の▲2.9から6.1ポイント減と悪化となった。

震災以降、資金繰りD Iはマイナス水準で推移しており、受注単価の低下により、採算性が悪化していることが要因と考えられる。

資金繰りDI



	(年/月)	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3	24/6
資金繰りDI		2.1	8.0	2.1	(未調査)	▲22.3	▲5.3	▲7.7	▲2.9	▲9.0